

Book & Author

著者に聞く! ⑥

Syusaku Miyaji

宮路秀作

『経済は地理から学べ!』



宮路秀作 ●みやじしゅうさく
代々木ゼミナール地理講師。
鹿児島県生まれ。「東大地理」などを担当し、1週間に2000人以上の生徒を指導する。著書に『カリスマ講師の日本一成績が上がる魔法の地理ノート』(KADO KAWA/中経出版)など。

宮路秀作氏のスペシャルインタビューがSQUETサイト (<http://www.squet.jp>)でも読めます!

「山や川の名前を暗記する科目」と思われがちな「地理」。だが人気講師・宮路秀作氏の手にかかれば、そのイメージは一変する。宮路氏が本書『経済は地理から学べ!』で見せてくれるのは、「経済」と根っこでつながった地理の「真の姿」だ。

「地理の目的は『現代世界を知ること』。『なぜ世界はいま、こうあるのか』を地形や気候、産業、交通、人口といった側面から探ります。つまり、経済の核となる(ヒト・モノ・カネ)の動きは、地理で説明できるのです。そのことを知ってもらうために、この本を書きました」

宮路氏は経済を考えるうえで大切な「地理の視点」として、「自然」「スケール」「資源」「距離」の4つを挙げる。

「『自然』は地球が人間に与えた『土台』です。暑ければ薄手の衣料が売れ、雨が多ければ堤防技術が発達するように、経済を支える産業や技術は自然環境に応じて発展します。その意味で『自然』は最も重要です。『スケール』はモノを見るとき規模、『資源』は有限ゆえに価値のある、経済に不可欠なものです。そして『距離』には(空間・時間・経済・感覚)の4種類がありますが、ビジネスにおいては『輸送費がいくらか』とい

う経済距離と『親近感が湧くかどうか』という感覚距離の2つがポイントになるでしょう」

本書ではこれら4つの視点をもとに、世界各国の経済状況が地理的に解き明かされていく。アメリカはなぜTPPから離脱するのか。中国はなぜアフリカ諸国に投資するのか。ノルウェーはなぜEUに加盟しないのか。シンガポール急成長の要因は何か――。「切り口」は多様だが、地理で説明していく手際は一様に鮮やか。深く納得できる。

「さまざまな要素をつなげて一つの全体像を示すことを、地理学では『景観』といいます。景観として迫力のないものはポツにしましたので(笑)、どなたでも面白く読んでいただけるのでは、と思っています」

宮路氏が受験参考書ではなく一般書を執筆するのは今回が初。ビジネスパーソンが地理を学ぶ意味は、どこにあると考えているのだろうか。

「企業は、海外や国内、大都市圏など、それぞれの『スケール』で勝負しますよね。しかし市場規模がどうあれ、地理的に見るべきところは変わりません。人口が多いほど市場は大きくなり、産地から消費地が遠いほどコストはかさむのです。地理を

学べばそういった見方が養われますし、この本はその指南書になるのではないかと。また海外を知られば、『日本の強み』も見えてくるはずですよ」

地理の目線があれば、世のさまざまな事象を違った角度から読み解けるのではないかと、経営判断にも生かせるのではないかと。そう思わせてくれる画期的な本である。



『経済は地理から学べ!』
(ダイヤモンド社) 1620円(税込)

P.34のアンケートに
お答えいただいた方の中から

抽選で**15名様に**
プレゼント

締め切りは9月29日(金)です。